

八雲町育成牧場運営協議会 会議録

■日時 令和8年1月21日（水） 13:30～14:30

■場所 八雲町役場3階議員控室

■出席

運営委員：影浦義和、佐藤正之、都築岳志、中島史子、小栗雅人、小野泰、
溝口拓哉、畔柳正

渡島農業改良普及センター渡島北部支所：横山支所長

JA新函館八雲支店北部酪農畜産センター：舟口センター長

株式会社青年舎（指定管理者）：吉田社長、長谷川社員

八雲町：萬谷町長、加藤課長、上野課長補佐、高嶋係長、角屋

■顛末

1. 挨拶（八雲町長 萬谷 俊美）

まず、協議会開催に先立ち、この度職員による横領による不祥事がありましたこと、深くお詫び申し上げます。再発防止および信頼回復に向けて全力で取り組んでいく。

育成牧場の令和7年度の運営については、皆様の協力により無事完了することができた。今後の育成牧場がどのような役割を果たすべきか、活発な意見を頂戴いたしたい。

2. 報告事項

（1）令和7年度運営状況について

①令和7年度収支決算見込み（指定管理者説明）

委員より異議なし

②令和7年度使用料内訳（指定管理者説明）

委員より異議なし

③令和7年度入牧状況（指定管理者説明）

委員より異議なし

④委託牛増体量調

委員） 有機草地だから増体が悪くなるということはない。育成牧場の草地は状態も良く、有機草地の公共牧場としてとても価値のある牧場だ

と考える。雑草地でも放牧すれば雑草は減っていき、いい牧草地になっていくし、化学肥料に頼らなくても牧草には再生能力がある。現況よりよい管理方法を探してほしい。

管理者) 草地管理については、技術不足な面もあった。また、有機草地を良い状態で維持するのにコストがかけられなかった。

委員) 不耕起播種を行う方法もあるのでは。

管理者) 予算の関係上、5年間の指定管理期間中に今後のことも考えて行うのは現実的に厳しかった。

委員) 入牧期間を10日間でも延ばせば増体量もよくなったのではないか。

管理者) 草地の状況を考えると難しかった。

委員) 夏の暑さによる、牛や草地への影響は。

管理者) 大きな影響はなかった。

⑤委託牛疾病発生状況および事故発生状況

委員) 小型ピロプラズマの発生が多いのはなぜか。

管理者) 数年前から発生数が多く、家畜保健所の指導により対策継続中である。

3. 協議事項

(1) 育成牧場の今後の在り方について(事務局説明)

事務局) 3年間の猶予期間中に、今後の草地の利用方法や、利用者への説明等を行っていく。

委員) 北里大学八雲牛を増頭生産するには、敷地が足りないため、育成牧場の利用が必要不可欠となっている。閉鎖後、何らかの形で牧草地が利用できるよう、検討していただきたい。

事務局) 閉鎖後も、継続して牧草地として有効利用される方法を検討していく。

委員) 育成牧場を閉鎖するにしても、国内の耕作放棄地も増えているなか、追い打ちをかけるようなことはしてはならない。草地として長く利用していただきたい。

委員) 道営草地事業等、町で申請するうえで育成牧場草地を含むことにより、申請ができていた部分もある。町内農家の基盤整備のためにも、長く維持してもらいたい。現状規模で預託業務を維持していくのは難しいかもしれないが、前向きに活用できる方法を模索してほしい。

委員) 道内の公共牧場は赤字経営が多い中、八雲町育成牧場の経営はうま

くいつているのではないか。酪農地帯で育成牧場という存在は非常に重要であるため、3年間慎重に協議していただきたい。